

# 七小校長室便り

開校51年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.8

令和5年(2023年)12月25日

## 2学期の教育活動へのご理解とご協力に感謝いたします。

本日、令和5年度の2学期の終業式の日を迎え、無事に教育活動を終えることができました。PTA並びに保護者の皆様、見守り会をはじめとする地域の皆様には、本校児童の安全と安心の取組にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。



コロナ禍の制限が大きく緩和されてから、本格的な教育活動を展開してきた2学期でした。学校行事を行うことにおいても、各学年の取組や活動においても、また、これまで、当たり前のように取り組んできたことを、改めて行うことができるということに対しても感謝する日々です。更には、日常を当たり前のように過ごせることの素晴らしさや有難さ、そして、凄さも感じています。

「当たり前」ということが「当たり前でない」のだということ、このコロナ禍の期間を通して、嫌というほど味わってまいりました。だからこそ、これからの学校生活や日常の生活を大事にし、意味のある日々にしていきたくと切に願っているところです。

今年度の教育活動は、来年の3学期を残しておりますが、この令和5年の終わりに心から御礼を申し上げます。この1年、ありがとうございました。

## 直接的な対話と連携を目指して

2学期においては、これまでできなかった対面形式の懇談や面談の機会がたくさんあり、直接お話ができる対話の場面が多くありました。保護者の方とはもちろんのこと、地域の様々な立場の方とのお話もすることができ、私にとっては、とても有意義で大切な時間となりました。

対話においては、やはり、直接お話をすることが、お互いを理解し合う上で意味のある重要な手立てであることを、このコロナ禍の経験を通して、私を含め多くの方が実感されているのではないかと思います。

特に学校における教育活動では、集団を基本としている場でもあり、人と人との関わりが制限せざるを得ない状況では、なかなか教育活動を展開することは難しく、とても困難な日々でした。授業をするにおいても、子供たちの表情を見ることができないところでの学習は、学習内容を理解できているのか、問題に対して何を考えようとしているのか等、子供たちの状況を知る手立てまで制限の中で行わなければならない、学校としての教育的機能が果たせないことも多々ありました。

また、1人1台端末を使用した取組が推進され、思いもよらない速さで普及されましたが、画面越しでの学習にも限界があり、私たち教員のスキルアップも必要となりました。

そして、今、本来の形である対面形式の学習活動や教育活動ができるようになり、ようやく学校としての教育的機能を果たすことができるようになりました。いよいよ本格的に、国立第七小学校の未来に向かっての取組を行う時を迎えたと思っています。

これからも直接的で、有意義な対話の時間を大切にして、人と人との関わりを高める教育活動を展開してまいります。そのためにも、多くの方々との連携がカギとなります。PTAや見守り会、育成会、地域の様々な方々とのように繋がり、そして、教育活動をどのように協働して実施していくことができるのか等々、時間の許す限り多くの対話を重ね、有意義な連携を行っていきたくと考えています。様々に対話と連携の機会を模索してまいりますので、これからもよろしく願いいたします。

## 【校長のつぶやき】

今年の冬は、暖冬傾向という予報が出ていますが、皆様は、どのように感じていらっしゃいますか。私の出身地域は、冬でも温かい地域で、また、生まれ月も9月ということもあって、暑さに対する耐性はありますが、実は寒さには、とても弱いのです。冬という季節は、嫌いではありませんが、正直、苦手な季節です。

人は、環境に大きく左右されることを、私は、この時期になると否が応でも感じてしまいます。誰にも苦手があり、うまく適応していこうと努力したり工夫したりして、自分の環境を整えようとしていますが、なかなか上手くいかないこともあります。そういう時には、「頑張りすぎないように頑張る」ことで気持ちが落ち着く経験を、これまで多く体験しています。年末年始を迎える中で、心豊かに過ごすためには、頑張りすぎないことも1つの手立てでもあると思います。

慌ただしい年末年始ですが、よりよい日々としていくためにも、頑張りすぎない自分も自分として認めるのはいかががでしょう。それでは、よいお年をお迎えください。